

## 令和元年度 自己評価書（設置者・園長等 管理職編）

○子どもが主体的に取り組める保育ができたか。

年長を中心に子ども達が自分で考え、進めていけるようにテーマを決めて話し合いをする機会を作っていたが、一部の子どもの考えに偏りがちな傾向がある。言葉の発達が未熟な年少・年中児では、さらにその傾向は強い。子どもの生活や遊びの様子から興味や関心を汲み取る子ども理解により一層努める必要がある。

○室内はコーナーで区切り、遊びや生活の空間がそれぞれ確保されている。また、上靴を脱いでくつろげるようにジョイントマットなどを敷いて環境を整えた。そして雨の日は遊戯室などを使って運動遊びが出来るようにしたり、戸外では跳び箱の設置、平均台や鉄棒を組んで挑戦したくなるような遊びの空間も用意した。

しかし 夢中になれる空間かという今一步。遊びこみや、持続といった面では十分でないし、状況によっては落ち着かない印象もある。環境だけでなく、遊び方にも保育者の見守りや、必要に応じた働き掛けがもっといるのではないか。

野菜を身近にかんじることができるよう、プランターや園庭に作った畑に野菜を植え、その成長を感じられるように取り組んだのは食育にもつながり、良かった。

○異年齢の友達とペアを決めて活動を行ったのはとても良かった。一緒に遠足に行ったり、クッキングをしたり、関わりのきっかけ作りをしたが、3学年で定期的に関わりをもつことが難しかった。時期や行事によって交渉が出来たり出来なかったりする。計画的に活動を進めることが必要ではないだろうか。